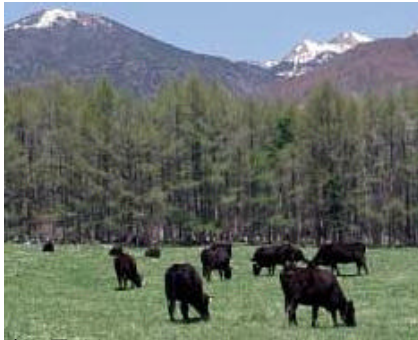


迷宮！地雷！八ヶ岳牧場

2006年10月8日 トータス2日間大会 1日目 (山梨県北杜市)

木村佳司

日本屈指の名トレイン群・八ヶ岳南麓。挑戦しても尽きない楽しさと奥深さがそこにはある。



牛に罪はない

地雷？！

「あーっ！踏んじやった！」
会場のところどころで悲痛な叫び。
「やだなー。これレースシューズじゃないのに。」

トータス2日間大会1日目は八ヶ岳牧場を会場に行われた。会場と言っても、そこはつい先日まで牛を飼っていたホンモノの牧場。オリエンテリング大会開催のため、牛は隣の牧場に移動されているようだが、牛が残したまだまだ新鮮な「地雷」が会場のあちらこちらに隠れている。

遠くには八ヶ岳の山頂がクッキリと見え、目の前に広がる緑の牧場は美しい。そんな景色に目を取られていると、牧草に隠れている「地雷」を踏んでしまう。どっかーん。

コース上で大爆発

「地雷」があったのは会場だけではなかった。コース上でも地雷級の大爆発をしてしまった。

コースとトレインの難易度は最上級。マップコンタクトを慎重に行ってレースを運ぶ。意識が飛ばないように、慎重に慎重に・・・

どっかーん。あぁ・・・やっちゃった。「地雷」踏んじやった気分。このあたりに居ると思うけど現在地が特定できない。周囲をぐるりと回ってみるがリロケートできない。特徴のない地形に特徴のない植生。

えーい仕方ない、道まで出て仕切りなおしだ！ 残念だなぁ、ここまでミス

を抑えてやってきたのに。

あとで他人のラップを見ると、地雷を踏んだのは私だけじゃなかった。このコースとトレインに仕掛けられた最高難易度という「地雷」に多くのランナーが玉砕したようだ。

うーん、自分だけじゃないと判ってもやっぱり悔しい。この悔しさがまた八ヶ岳のトレインに挑戦するエネルギーになる。くそ～。



リロケートの手がかりが少ない森。ひとつたび現在地を失えば彷徨ってしまう。

紺野・斉藤が優勝

今回のイベントの最上位参加クラスでは予選・決勝方式のミドルレースが行われた。

今年の世界選手権にも出場した紺野俊介が男子シニアを制した。やはり紺野はミドルに強い。女子シニアは往年の女王・斉藤早苗がナショナルチーム組を抑えた。この難しいコースとトレインでは経験がものを言うようだ。

男子ユースでは先日のインカレロングでも3位に入った西村徳真(京大)が優勝。女子ユースでは米谷法子(東京農工大)がインカレロングに続き優勝を飾った。

ジュニアクラスには多くの選手がチャレンジした。インカレロングが終わり学生はミドル競技へと軸足を移してきている中、お互い競い合う場となったようだ。

男子シニア決勝 3780m	120m		
1 紺野俊介	0:25:50	木酔会	
2 篠原岳夫	0:28:27	渋谷で走る会	
3 片山裕典	0:28:57	おいぐす	
女子シニア決勝 2910m	80m		
1 斎藤早生	0:24:30	チーム白樺	
2 渡辺円香	0:28:56	ES 関東 C	
3 利光恵美	0:30:21	上尾 OLC	
男子ユース決勝 3240m	115m		
1 西村徳真	0:25:21	京大 OLC	
2 日下雅広	0:26:28	東北大 OLC	
3 入谷健元	0:27:04	京大 OLC	
女子ユース決勝 2630m	75m		
1 米谷法子	0:27:00	農工大 OLC	
2 小林美幸	0:28:15	金大 OLC	
3 井手恵理子	0:32:39	OC	

アスリート5km 男子 5440m	160m		
1 元木悟	0:45:39	Team 白樺	
2 吉田勉	0:47:40	みちの会	
3 前野直樹	0:51:17		
アスリート5km 女子 5440m	160m		
1 元木友子	0:53:43	Team 白樺	
2 宮川祐子	1:06:51		
3 宮本知江子	1:11:48	京葉 OLC	

アスリート4km 男子 4230m	150m		
1 田中徹	0:44:36	京葉 OLC	
2 後藤崇	0:45:59	Love'99	
3 竹中庸	0:47:18	大和市	
アスリート4km 女子 4230m	150m		
1 天野理香	1:01:42	横浜 OLC	
2 坂本君江	1:03:04	Forester	
3 齋藤まどか	1:10:07	川越 OLC	

アスリート3km 男子 3580m	110m		
1 和泉澤誠	0:43:55	方向音痴会	
2 小泉辰喜	0:49:39	丘の上	
3 石丸	0:54:07	OC	
アスリート3km 女子 3580m	110m		
1 植松裕子	1:11:44	高崎 OLC	
2 若梅節子	1:16:53		
3 木村初美	1:21:40	長野	



強風が吹いたものの、快晴に恵まれた八ヶ岳牧場。(木村佳司)

トータスの10人リレーに、あの山川氏が参加。クラブカップ7人リレーを支えたメンバーとともに27年ぶりに表彰台に登った。



山川氏から元木友子へのリレータッチ。貴重な風景だ。

秋の珍事!

「おお、山川さんが走っているぞ」
「珍しいものを見た」

日本を代表するリレー大会「クラブカップリレー大会」の主宰者・山川。プロの地図調査者として、このオリエンタリング界ではすっかりお馴染みだ。その山川は0-mapを作る姿や大会運営する姿を見ることがあるが、オリエンタリング大会に参加して走る姿を見ることは殆どない。

それもそのはず、山川は重度の内疾患障害者でもある。1週間3回の透析をこなしながら、日々の地図調査を行っている。自身がオリエンタリング競技者として走るまでの体調に持ってゆくことは難しい。

クラブカップ2006運営が終わり、ちょうど体調調整したタイミングで、10人フォークリレー。チーム白樺・長野のメンバーとして山川も参加者として出走することになった。

内疾患ゆえに登りに弱く、メンバーの中で最もスピードが遅い山川だが、フォークリレーのルールを活かせば、克服できるかも。

10人フォークリレー

ここで10人フォークリレーの走順について説明しておこう。

1チーム(合計10人)

- 1走 Aさん、Bさん、Cさん (3名)
- 2走 Dさん、Eさん、Fさん (3名)
- 3走 Gさん、Hさん、Iさん (3名)
- 4走 Jさん (1名)

1走の3名は一斉にスタートする。そのあと2走(3人)にチェンジオーバーするが、誰が誰にチェンジオーバーしても構わない。2走から3走(3人)へのチェンジオーバーも同じ。ただし最終ランナーの4走(1人)へタッチする時は3走が3人全員揃ってから行われる。

こうした特殊ルールのため、一人遅い人が居ても走順の組み換え次第で、その影響を最小限に留めることができる。



1走スタート。チームの総合力が問われる。

白樺・長野チーム快走

レースで白樺・長野チームは快走した。1走の若武者たち(小林・林・立花)がレースを引っ張る。2走で山川氏を投入、参加者最年少の木村友佳、白樺の桑野もここに投入した。3走では実力が拮抗する長野の中堅(木村・黒田・元木友子)を投入。山川氏、登りに苦しむも、タッチを繋いだ小林・元木友子の走りに助けられた。

4走へのタッチ時点で5位。気が付けば「渋谷で走る会」まであと2分半に迫っている。おおっすごい! 主力選手が抜けているとは言え、追撃する相手はクラブカップの優勝チームだ。

4走・元木悟が猛追し、スペクテーターズコントロールでは渋谷との差を30秒にまで詰めた。「もしや」と思ったが、篠原が元日本チャンピオンの意地を見せ最後は逃げ切った。結局、白樺・長野チームは5位でレースを終えた。

それでも我々は、10人リレーというルールの中で、山川の重い体を表彰台

に持ち上げたのだった。

- 1 木酔会 2:41:50
山本真司/皆川美紀子/市原孝一/橋本陽子/石山佳代子/小暮円香/大塚友一/小暮喜代/今井直樹/紺野俊介
- 2 東北 MG 'どまど 2:46:31
柏俊輔/宮城島俊/高橋元気/荒井奈穂/千葉光絵/菊池由喜/勝田弘/渡辺悠介/上野光/高橋善徳
- 3 名大 OLC 3:01:53
西崎隼人/青木大輔/小林知彦/鈴木陽介/川瀬智美/片岡裕太/奥村理也/藤生考志/崎田孝文/寺村大
- 4 渋谷で走る会 3:02:06
武田光/志村直子/早野哲朗/乗松裕子/川島沙耶/波多野夏/羽鳥和重/浜端紀行/坂本貴史/篠原岳夫
- 5 チーム白樺・長野県 3:03:29
林城仁/立花聡/小林隆昭/木村友佳/桑野文/山川克則/木村佳司/黒田幹朗/元木友子/元木悟
- 6 京大京女 OLC 3:06:07
吉野信/入谷健元/稲垣孝宣/小西仁美/栄森貴久/関谷麻里/五嶋宏通/室田知宏/津国真敏/西村徳真



3走のコース図(一部)
ハヶ岳の走りやすいテレイン、適度な難易度と距離。参加者全員が楽しめた。

(木村佳司)